



## 「(高病原性鳥)インフルエンザを考える！」

新型インフルエンザは、10年から40年の周期で出現し、世界的な大流行（パンデミック）した場合、日本でも全人口の25%が罹患すると想定され、約2000万人が医療機関を受診すると推計されています。

また、東南アジアを中心に高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が猛威をふるいヒトに感染、死亡例も報告され、中国、ヨーロッパにも感染が拡大しています。つまり、HPAIが突然変異によりヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザ発生の危険性が高まっています。

このような中、我が国でもWHO世界インフルエンザ事前対策計画（2005年5月）に準じて、「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定、迅速かつ確実な対策を講ずるものとします。

そこで、今回は改めてインフルエンザとは何かを考え、高病原性鳥インフルエンザに対する家畜保健衛生所の取り組みをご紹介します。

### 1 インフルエンザウイルスの分類

インフルエンザウイルスは、NP抗原性でA, B, C型に分類され、少数の例外はあるもののB, C型はヒトのみに感染するといわれています。

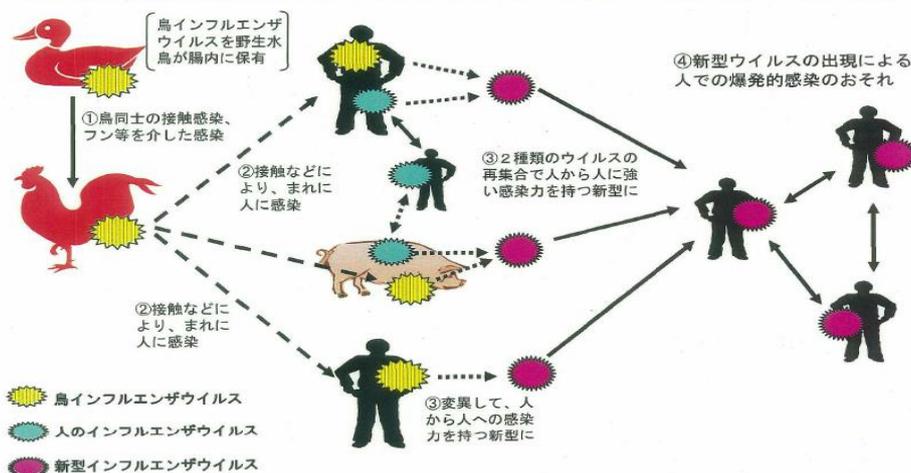
A型ウイルスは、ヒト、鳥類、豚、馬およびクジラなど多くの動物に感染、発症しますが、牛などの反芻獣、イヌおよびネコには感染しません（H5N1がタイでネコ科動物に感染例があります）。

これらはウイルス表面の突起、棒状のHAと箱状のNA蛋白より構成され、HAの抗原性1-15亜型（H1-H15）、NAの抗原性1-9亜型（N1-N9）に分類されます（ヒトはN1、N2のみ）。

### 2 新型インフルエンザへの（突然）変異

新型ウイルス対策行動計画（厚生労働省）より

#### 鳥インフルエンザと新型インフルエンザの関係



ヒトの間で循環しているインフルエンザウイルスのHA 抗原は、変異が非常に速いのですが、馬ではヒトの80%、豚は40%のスピードでしか変異せず、水禽類のこれに至っては、ほとんど変異しません。

しかし、異なった2種の株のウイルスが同じ細胞あるいは宿主（豚やヒト）に同時に感染すると核酸が分節しているためリアソータント（合体）ウイルスが出来やすいといわれています。

余談ですが、1918年（大正7年）スペインインフルエンザ発生時のアメリカにおいて豚の呼吸器病（症状）が大流行し、H1N1 ウイルスがヒトから豚に感染したものとされています。

### 3 高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生状況

東南アジアを中心に依然として高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生が認められています。

また、ヒトへの感染例が、2003年（平成15年）12月～2005年（平成17年）10月の間に発症者122名、死亡者62名報告されています。

最近では、中国およびヨーロッパでもHPAIの発生が報告され、日本においても茨城県を中心にいまだに清浄化には至っていません。

### 4 対策

農家等の経済的損失はもとより、鳥でのHPAI発生は、ヒトへの感染リスクを拡大させます。

それらを踏まえ、家畜保健衛生所では、動物からヒトへの感染伝播のリスクを減少させる対策を実施しています。

- 1) 国内サーベランスの強化（定期的な抗体検査等の実施）
- 2) 侵入防止対策の徹底（飼養衛生管理基準の遵守）
- 3) 早期発見・通報（養鶏農家からの死亡鶏等の報告）
- 4) 豚におけるインフルエンザウイルスのサーベランスの実施
- 5) 不幸にして感染（発生）が確認された場合、拡大防止のための封じ込め（発生を限局的に防圧するためのまん延防止措置）計画およびシミュレーションを行っています

**ご不明な点は、城南家畜保健衛生所まで**

**TEL 0966-22-3814 FAX 0966-22-3617**